

ホップ
ステップ
ジャンプ!

全国の大空襲から72年
無視されてきた“空襲被害者への補償”
皆さんの支援のおかげで……
超党派空襲議員連盟の努力で

いま動きはじめました

全国空襲連 院内集会

日時 3月9日(木) 15時~17時

場所 衆議院第2議員会館 1階・多目的会議室



「浅草寺本堂焼失」狩野光男(画)

主催

戦争被害のすべて解決を！ 実行委員会

実行委員長：中山武敏（全国空襲連共同代表・弁護士）

連絡先

全国空襲被害者連絡協議会

〒131-0045 東京都墨田区押上 1-33-4-102 TEL・FAX：03-5631-3922

取り残された空襲被害者

★下町を焼き尽くした東京大空襲

第二次世界大戦末期のおよそ10か月間、日本本土はアメリカ軍の空襲下にありました。当初は、軍需工場や都市の中核が標的でした。ところが、東京大空襲を境に無差別爆撃、すべてを焼き尽くす空襲に変貌しました。

東京大空襲ってご存じでしょうか。それは1945年3月10日に起こりました。アメリカのB29戦略爆撃機約300機が超低空で来襲し、約1600トンの焼夷弾を投下。隅田川両岸にある下町一帯は、深夜の烈風の下、わずか2時間半の間に、死者10万人余、被災者100万人、焼失家屋26万8000戸と未曾有の破壊となりました。焼き殺された人たちの遺体は、防空壕に、学校に、川に、道端に。至る所に散乱していました。

大空襲をはじめとする東京空襲は、大小100回以上繰り返され、八王子など多摩地域にも広がりました。その結果、市街地の50%以上が焼け野原となり、被災者は300万人にもものぼりました。

全国に広がった空襲では、市街地の70%以上が焼失した都市31市死亡した民間人は50万人余といわれています。

☆どうなったのか私たちの戦後

戦後、元軍人・軍属には50兆円を超える補償措置が講じられながら民間の空襲被害者の補償は一切行われず、戦後70年を過ぎてもなお、取り残されたままです。私たちは全国空襲被害者連絡協議会を立ち上げ、援護法の制定運動に取り組んできました。しかし、あの空襲を生き延びた戦争孤児や戦災障がい者などはいずれも高齢化し、残された命の持ち時間がもうわずかしかありません。いま、国会では超党派の空襲議員連盟が結成され、民間空襲被害者を救済する特別措置法の制定に向けた法案作りが行われています。私たちにとってこれがもう最後の最後の機会です。私たちの運動にどうかご理解とご支援を。